

共に会津のために！
～生かせ 若きプロ
フェッショナルの力～



かわりばん

Young Entrepreners Group of the Aizuwakamatsu

平成22年8月発行
会津若松商工会議所青年部
会長 荒木孝康
編集：総務委員会
(事務局 TEL.27-1212)



会長 荒木孝康

あつという間にもう8月です。毎日つづくこの猛暑にたまりませんね。我々もこの猛暑に負けぬ程熱く青年部活動に邁進している毎日ですが、皆さんはご家族や会社の方々に青年部のことをどれくらい理解していただいているでしょうか？ さて今回はご家族や会社の方向けに「青年部ってどんなところ？」というお題で少し書かせていただきます。そしてこのかわりばん版は青年部の唯一の公式な広報誌です。必ずご家族や会社の方々に御覧下さい。それではここからはご家族や会社の皆様に向けてです。

我々は日頃から「青年部」と呼ばれていますが正式名称は「会津若松商工会議所青年部」です。通称で「会津若松 YEG」と呼ばれる事も多いです。よく混同されがちですが「青年会議所」(通称 J.C.)や「商工会青年部」とは全く別組織です。会津若松商工会議所青年部(以下 YEG)には現在130名ほどの会員が所属しており、年齢は20代から45歳までの男女で構成されています。45歳で定年卒業するシステムです(年度により一部の人は46歳)。今年で創立25周年を迎えます。YEGは全国組織があり、約400単会3万人が所属している大きな組織です。その中でも会津若松 YEG は大きな単会で所属130名は、県内で1番大きく(福島、郡山が100名強程)東北でも5本の指に入ります。

何の為に組織？それは明確な目的があります。地域貢献です。その目的の下さまざまな事業を行っています。皆さんの身近なことで言えば「FMあいつ」は青年部事業が発展し開設されましたし、JRの「SL運行」を誘致した大きな力になったのも青年部でした。街中や観光地でよく見かける「まちの駅」なども普及させる原動力となったのも我々です。「会津ブランド」を初めて提唱したのも、「EU協会」「国際交流協会」設立に深く携わったのも青年部でした。そして TMO「まちづくり会津」設立の前身団体を青年部で発足し、青年部出身者が社長、取締役の多くに就任しています。

その時々大きな役割を地域社会の中であつてきました。そして現在も大きな役割を受け持っています。文化活動として地域で最大規模の「会津エンジン」事業、次世代の人材育成を行う「ジュニアエコノミーカーレッジ」事業、「会津観光」の新たな切り口を提言する事業、他団体との連携を図り「広域的な経済活動」を推進する事業、の4本柱を掲げ活動しています。

我々はこれらの活動の中で地域貢献を行うだけでなく、さらに別の大きなものも得ています。最も大きなものが「友情」であり一信頼できる仲間です。親や上司から受け継ぐ物ではなく自分で培った「人間関係」は最も貴重なものだと言えます。そして「自分の力」があつてはずです。事業を行うにあたり会議や議論の仕方等を学んでいきます。仕事を任せられることでスキルが身に付き責任感が生まれ、信頼する事とされる事の重要性を知り、人を助ける事と助けられる事の必要性を実感できるでしょう。「人の役に立つ人」とは何かを考えるようになります。組織の中で自分の居場所を見つけ、周りから認められる存在になる事で自信を深めやる気が出る。そしてある程度経験を踏んだならばそこには「役割」が付いてきます。役は人を育てるの言葉通りその過程で「リーダー」としての資質を獲得していきます。この様に、事業を行うことで「自己研鑽」を同時に行っているのです。言い換えれば青年部経済人として必要な事柄を訓練して手に入れているのです。そして青年部で培った力を各々の企業に持ち帰って生かし、それぞれの立ち位置で生かし、自社の繁盛に寄与する。ひいてはそれが地域経済の活性化につながる真の意味での「地域貢献」となると信じます。

手前味噌的な青年部論になつてしまいましたが、皆様の息子さんや部下は、皆さんの思っている以上に真剣に取り組んでいます。そして成長もしています。仲間と共に何かを「やり遂げる」という体験は非常に重要な体験だと思えます。今しか出来ない貴重な体験を彼らはしている。ご経験下さい、その結果は必ず本人に返つてくる事と確信しています。何かと出動回数も多く皆様にはご迷惑をお掛けする事もありますが、どうか温かい目で見てあげて下さい。結果は必ずどこかで本人に出てきます。これからもどうか青年部をよろしくお願ひいたします。

平成21、22年度の総務委員会は、当青年部が設立の頃から続けてきた「さくらの湖畔事業」の活動が財団法人日本さくらの会に認められ、3月24日に憲政記念館でさくら功労者として表彰を受ける。当青年部から、代表として長谷川副会長と山本委員長が出席する。そして、本年度の「さくらの湖畔事業」は5月9日に東山ダムで開催された。ここ数年ではめづらしく天候にも恵まれ、75名(ボランティア含む)の参加者のもと付近のゴミ収集やさくらに絡んだつる等の切断など、盛大に催された。



総務委員会

「鐘の鳴る街会津」
ゴールデンウィーク期間中、平成22年5月3日(月)17時～18時30分に、鶴ヶ城鐘撞堂において鐘を打ち鳴らす事により、市民や観光客に対する情緒ある城下町の雰囲気を作り出しました。我々市民が「仮都会津」という会津の魅力、資産の再発見をする事にも、観光客にも鐘撞きを体験していただいた事で、会津の思い出づくりの「助」となったと思います。保険の都合上、鐘を打ち鳴らした人々からは、住所・氏名を記入していただいたが、遠方から来ている人が多い印象を受けました。鐘撞きをしたご高齢の男女であった。非常に良かった。会津に来て正解であった。これで三途の川が渡るなんていうお声もいただく恐縮してしまいました。また、今回は参加者に対して真部直前会長より、鶴ヶ城と鐘についての歴史等の講話をいただき、好評を得ました。傍らで聞かせてもらいましたが、話が上手なので思わず涙ぐんでしまいました。

当日の参加者は会員25名、観光客等171名、合計196名と大人数でした。ご協力いただきました方々には厚く御礼申し上げます。

JEC委員会
第10回目のジュニアエコノミーカーレッジがいよいよ始まりました。第1回目から子供達が商売体験をするというカリキュラムは変わっていませんが、ここ数年でジュニアエコノミーの目的がさらに明確になってきました。

子供たちが、「自分力を発揮して達成感を得る」
自分力。子供たちがすでに持っている力のことです。学校の勉強が出来なくても笑顔がすてきだったり、物を作るのが得意だったり、一人一人持っている能力が違います。その自分力を発揮する環境を提供してあげることが目的の一つです。

達成感を得るためにはどうしたらいいか？
「昨年、あるチームが少しでも安い物を提供したいと言う理念のもと90円のドリンクを97円で販売しました。最終的に利益が少なくなっても、自分達で決めた値段によって安い物を提供できた」と気づくのか、もっと利益をとればよかつた」と気づくのか。どちらが正解かとはなく、自分で考え、自分で決め、自分で決定し、自分で気づく、この繰り返しで達成感を得る事だと考えます。

「自分力を発揮して達成感を得る」そして自分の可能性に気がついてくれればジュニアエコノミーは成功だと思えます。ジュニアエコノミーの目的が明確に表現できるようになつたことで、全国各地にも的確に伝達することが可能になりました。今年と同じ目的のもと、日本各地11箇所で開催されるジュニアエコノミーが開催されます。会津商工会議所青年部発祥の事業がこんなにも賛同されることはとてもうれしい事だと思えます。

なぜ、こんなに賛同されるのか？
ジュニアエコノミーは楽しいからです。是非参加してみてください。

平成21・22年度会員加入者

(順不同、敬称略)

氏名	役職	事業所名	業種	氏名	役職	事業所名	業種
五十嵐 巨樹	課長代理	会津交通(株)	タクシー及びバス等交通事業全般	島尾 雅行	税理士	みずほ税理士法人	税理士業
山口 耕平	取締役社長室長	(株)二丸屋山口商店	菓子材料・業務用食材卸・厨房機器設備・衣衣販売	小池 一成	社員	(有)小池菓子舗	菓子製造販売(あわまんじゅう等)
大竹 俊哉	代表	大竹俊哉政策ネットワーク	政策事務所	内海 基	代表	会津鶴千代	会津絵ろうそく製造・販売
水 下 昌哉	専務取締役	(有)水 downstream 店	青果小売・卸	櫻井 康	代表取締役	(株)サクライ	運輸代行業
星 孝司	代表取締役	(有)新星モーター商会	自動車販売及び修理	佐藤 学	営業	(有)喜多方麵茶屋	製造業
山口 義樹	社員(後継者)	(有)アート商会	自動車整備業				